

法政大学学術機関リポジトリ
HOSEI UNIVERSITY REPOSITORY

PDF issue: 2024-08-11

キャリア支援を考える 5：素人談義での
キャリア支援は危険

Kawakita, Takashi / 川喜多, 喬

(出版者 / Publisher)

教育新聞社

(雑誌名 / Journal or Publication Title)

教育新聞 / 教育新聞

(号 / Number)

2550

(開始ページ / Start Page)

3

(終了ページ / End Page)

3

(発行年 / Year)

2005-06

キャリア支援を考える

-5

キャリア支援に当たっているカウンセラー、コンサルタント、アドバイザーなど、様々な専門家が増えて、私のいわせれば街角の占い師程度、昔でいえば横町の世話焼き婆さん程度にすぎない場合もあるように思ふ。なるほど、昔から仲間であれ、上司であれ、もちろん父母、教員であらばこそ、なにくれとなく人生相談・進路相談に乗るつてことはしばしばあったことである。しかし、その相談がしきりした実証研究に基づくものであったか、といふと、怪しげである。医学に対する民間療法に等しい。

江戸時代の医者開業には特別な資格はいらなかつた。それでも、当時、1回の往診料は最低、現在の物価に直して3万円もどいた。ただし、組織内プロフェッショナルである薬医、御典医になるには厳しい修業が必要。御典医中のお目見医師になるには「医学館」卒業が資格であったそうな(中江克己)「江戸の定年後」。

素人談義でのキャリア支援は危険

法政大学キャリアデザイン学部教授

川喜多喬

ぬ。

や民営職業紹介所にも多数の人々がカウンセリングに当たつてい人のキャリア支援家養成が必要だと言いだし、必要だといふことと、供給ができるといふことは別のことである。いま、かりに医学研究者もないとして、医療が必要だから医者5万人を養成せよ、3年以内に、とやれば、歯医が続出するに違いない。

いろいろな高校から短大、大学でキャリア教育を担当する責任、非常勤の教員が増え、就職部・キャリアセンターにはアドバイザーが雇われ、公共職業安定機関から首をかしげて当た

り前であろう。どこかの大学の先生が机上で計算して5万円でキャリア支援家養成する。しかし、これを養成する大学、大学院はほぼ皆無である。古典書は、職業研究からイントーンシップ技法に至るまで、まだ存在しない、と思う。そもそも日本人のキャリアについてどうで、何がどう変わつて変わらないか、ちゃんとした研究シリーズはないのではないか。

あんちよこな転職指南書、軽いノリの就職技術助言記事を二三説んで人を叱咤激励する程度のことだけがキャリア支援だと思われては(実務上、そのレベルでよい場合もあるが、それは医者が軽い風邪程度の患者に対する場合と同じであつて、だからといってそれが医者ではしかるべき医者では困るのだから)、キャリア・プロフェッショナルの地位を確立できぬ。